



札沼線廃止 鉄道ファン

区間 が夢プラン

有効活用には



▲札沼線には「秘境駅」と呼ばれる無人駅も...

5月6日に最終列車

廃線を1ヵ月後に控えた4月第1週の週末。札沼線の終着駅、新十津川駅に午前9時28分に着いたディーゼルカー「キハ40」から降りた20人ほどの客のうち、ほぼ全員が駅前の2軒の土産物店に吸い込まれていった。終着駅にこの1両のディーゼルカーが停車しているのは32分間。午前10時ちょうどには、折り返

しの石狩当別行きとなる。片道1時間23分の鉄道旅だが、「日本一早い終列車」としてテレビなどに紹介されてから鉄道ファンを中心に全国から多くの人たちが訪れるようになった。3年前のJR北海道のダイヤ改正で、それまで終着駅での停車時間がわずか12分だったのを土産品などを扱う鉄道ファンのために出発時間を遅らせた経緯がある。

JR北海道の札沼線（桑園―新十津川）のうち、北海道医療大学から新十津川間47・6キロのラストランが5月6日（正式な廃線は7日）に迫り、地元の人たちや鉄道ファンが名残を惜しむ中、線路や駅舎の再利用を求める活動が広がりを見せている。トロッコから歴史保存鉄道構想まであるが「歴史ある線路や駅舎を残したい」との思いは募るばかりだ。

（ジャーナリスト 黒田伸）



▲札沼線（赤線部分が廃止区間）

うと「終着駅到達証明書」も無料で発行してくれる。土産物店のうちの1軒の「寺子屋」を営業する古賀三重子さんは「最後はお客さんで混雑するよ」と言われて覚悟していた

のに」と残念そうに話す。それというのも、新型コロナウイルスの感染拡大でレストランに関係した増発や車両の増編成が減り、記念イベントなどの縮小や中止が検討されているからだ。5月6日の最終便のセレモニーについてはJR北海道と新十津川町で協議中（4月7日現在）で4月25日（土）に新十津川町総合健康福祉センター「ゆめりあ」で予定していたNHKラジオの番組「鉄旅・音旅 出発進行！音で楽しむ鉄道旅」の公開録音は中止された。

チュアマカメラマンの作品も

土産物店の古賀さんは7年前に出店。本州から訪れる鉄道ファンに「昔は札幌から沼田まで通っていたから札沼線と言う

▲廃線を静かに待つ新十津川駅（上）と「ありがとう」のぼりが飾られた無人駅



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)